

学習済みモデルの適応を意識した中学校社会科地理の授業デザイン

ー北アメリカ州における農業形態に関する学習を通してー

川島健志（富山大学）・黒田卓（富山大学）

概要：中学校社会科「世界の諸地域」分野の学習では、州を超え共通した内容を確認する場面が多い。そこで学習済みモデルの適応を意識させる授業をデザインすることで、学習者に社会事象の統合的な理解を促す。本研究では、ICTを活用し、アメリカ合衆国の「位置」「風向き」「地形」の三点の要素から降水量や気温の特徴に気付かせ、それに伴う農業形態の分布を学習する。これまでに学習者が学んできた、世界の諸地域における降水量や気温の既習事項を踏まえながら、法則性や共通性を見出し別の地域の学習においても活用できるような、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指した授業モデルを提案する。

キーワード：地理、動態地誌、世界の諸地域、Google Earth

1 はじめに

中條ら(2014)は、1998年版学習指導要領での「学び方の学習」理論は、方法重視のカリキュラム導入による低学力批判があったことや、学校現場での実践には困難な学習理論であったため、十分に成果を得ないまま内容知重視のカリキュラム転換に至ったと述べる¹⁾。

そこで、2008年度版学習指導要領では、「諸地域学習」における「内容知重視型の地理学習」のデメリットと、1998年度版学習指導要領の「方法知重視型の地理学習」のデメリットの止揚を目指すために導入された学習方法が「動態地誌的な学習」と言える²⁾。

2018年度版学習指導要領においても、「日本の諸地域」学習における考察の仕方として「動態地誌的な学習」は継承されている³⁾が、「世界の諸地域」の学習は「動態地誌的な学習」を取り入れることについて明記されておらず、「日本の諸地域」学習に比べ「知識重視の地誌学習」に偏っていると考える。また、地誌学習である以上「動態地誌的な学習」を導入しても「地方的特殊性」と「一般的共通性」を追求しなければならないこと等の問題も指摘されている⁴⁾。

そこで本研究では、地理的な見方・考え方の

考え方を働かせられるような学習済みモデルを適応させ、動態地誌的なアプローチで学習する「世界の諸地域」の単元開発を行った。また、地域的な特色をとらえる場面でICT活用を取り入れることで地理的事象のイメージをつかむことができるようになる。

2 動態地誌的な学習アプローチモデル

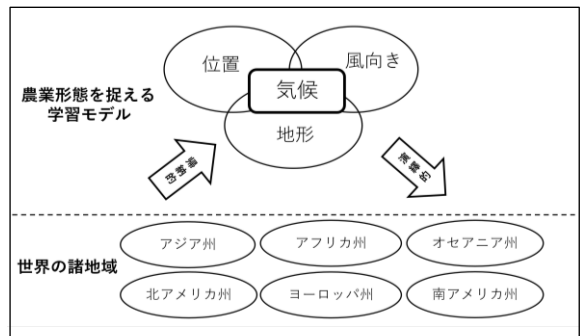


図1 農業形態を捉える構想モデル

清田(2013)は「動態地誌的な学習」の授業設計の5つの視点を挙げている⁵⁾。清田の視点の1つ、3段階の学習展開（1次：地域の特徴を示す地理的事象を見いだす段階、2次：中核とした地理的事象を他の事象と関連付けて追及する段階、3次：追求の過程や結果を表現する段階）を参考に図1のモデルを用いた授業デザインを行う。

3 モデルを用いた授業デザイン

まず、学習者が世界の諸地域で農業形態について学習する際に、その地域の地球上における位置や、その地域にみられる地形や風向きから気候を考えさせることで、学習者が帰納的に農業形態を決定づける気候要因について認識を深める。この段階を「地域の特色を示す地理的事象を見いだす段階」とする。本研究では、「世界の諸地域①アジア」の単元において構想を行う。

次に、ここで身につけた農業形態を捉える地理的事象を他の地域での農業形態と比較し、関連付けを行いより学習モデルを確かなものにしていく段階を「中核とした地理的事象を他の事象と関連付けて追及する段階」とする。本研究では、「世界の諸地域②ヨーロッパ」「世界の諸地域③アフリカ」の単元において構想を行う。

さらに、これまで世界の諸地域の農業形態を学ぶ中で、確かなものにしてきた農業形態に関する学習モデルを用い、演繹的に新たな地域での学習の際に農業形態を予想させ表現させる段階を「追求の過程や結果を表現する段階」とする。本研究では、「世界の諸地域④北アメリカ」の単元において構想を行う。

これらの授業を通して動態地誌的に世界の農業形態を捉える構想モデルを用いて学習を行うことにより、農業形態を捉える基礎的な見方・考え方を養い「知識重視」ではない世界の諸地域の学習が行えることできると考える。

4 ICT 機器の活用方法

降水量や風向き、地形の様子などのデータを可視化し組み合わせて示すことで、学習者は地球規模および局所的な地理的事象のイメージをつかむことができ易くなると考える。本研究では風向きや海流の流れを「earth.nullschool.net⁶⁾」で、地形の様子を「Google Earth⁷⁾」で確認する学習を取り入れる。地図上に気流や海流をアニメーションで表示することで、学習者は目に見えない地球規模でダイナミックに変化する気流や海流の動き、また、局地的な地形の特徴を直感的に理解できるようになると考える。

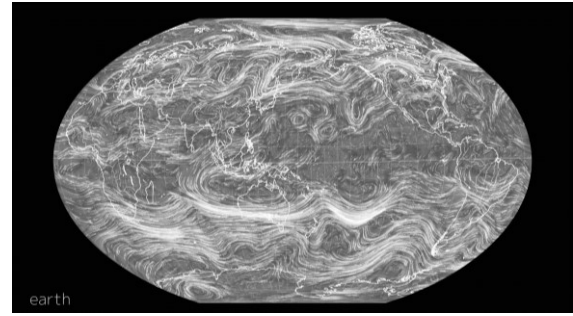


図2 世界の風向きの様子「earth.nullschool.net」より

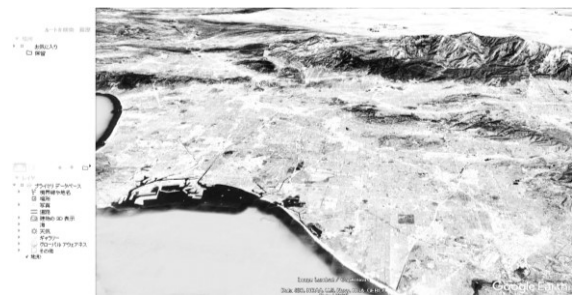


図3 ロサンゼルス周辺の地形の様子「Google Earth(www.google.com/intl/ja/earth/)」より

5 今後の課題

本研究では、ICT 機器活用を活用した動態地誌的な地理の授業のデザイン方法について検討を行った。今後は、今回扱えなかった地域についても本モデルを用いた授業デザインを通してその有用性について検討し、実際の授業での効果の検討を行う予定である。

参考文献

- 1) 中條暁仁, 岩本知之, 早馬忠広(2014) 中学校社会科における動態地誌的学習の特質と課題- 「日本の諸地域」を中心として-. 静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇), 45:71-81
- 2) 中條暁仁ら(2014) 同上
- 3) 文部科学省: 『中学校学習指導要領解説社会編』, pp. 17, 2017
- 4) 中條暁仁ら(2014) 同上
- 5) 清田直紀(2013) 「日本の諸地域」における動態地誌的な学習による授業の研究- 「確かな学力」を育む授業の工夫-. 神奈川県立総合教育センター- 長期研究員研究報告, 11:7-12
- 6) <https://earth.nullschool.net/jp/about.html>
- 7) Google Earth www.google.com/intl/ja/earth/